

親子すまいかた教室

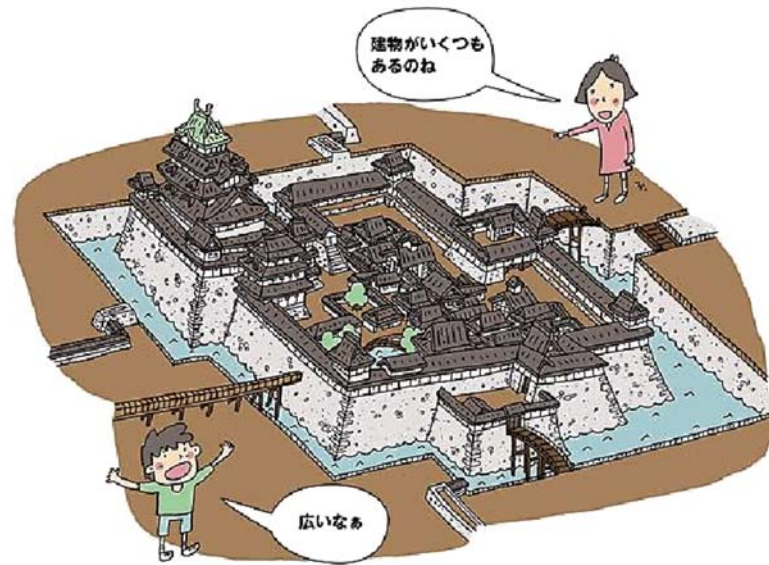
住まいの機能やセキュリティに役立つ「お城」の勉強 第2回

監修 九州女子大学 立松麻衣子さん

お城の始まり

平安時代後期まで貴族や豪族などの権力者たちは平野部の都に大きな館を建てて住んでいました。このころの武士は、権力者たちの地方の所有地（荘園）を管理していました。そして、この荘園の中の平地や丘の上などに塀をめぐらせた館を建て、一族で住んだのです。ところが、鎌倉時代になると武士の力が強くなり、武士同士の争いが始まって、有利に戦うための場所が必要になってきました。

そこで武士は、敵に攻められたら逃げ込み、敵の攻撃を防ぐことのできる小さな建物を山の上や急な崖（がけ）の上などにつくるようになったのです。この建物は「山城」といわれ、これが日本のお城の始まりといえます。その後、室町時代になると、あちこちの武士の勢力争いが激しさを増し、「山城」は、次々につくられていきました。



お城の大規模化

初めころにつくられた山城は、敵を追い返すのに都合がよいのですが、ふつうに生活するにはたいへん不便でした。その上、たくさんの家来を住まわせることはできませんでした。

また、戦いに必要なものをつくったり、おさめたりする、職人や商人たちがいる場所も十分にはとれません。世の中が少しずつ落ち着いてくると、お城は不便な山から降りて、小高い丘の上や平地につくられるようになりました。安土・桃山時代になって国内が統一されると、大名にその地域の権力が集まるようになり、それまであちこちにつくられていた中小の城は、大名の城にまとまっていきました。そして、なん重にも堀や石垣を巡らせたり、家来の住まいなどもつくりました。そのためお城は、従来より数倍も広い土地を必要とし、たくさんの建物が建つ、より複雑で大きなものになっていきました。

天守閣はお城のシンボル

お城の中でもっとも目を引くのは、ひとときわ高い天守閣（てんしゅかく）です。お城といえば、すぐに天守閣の姿が思い浮かぶかもしれませんが、実は戦国時代末頃まで、お城には天守閣という建物はありませんでした。

初めて本格的な天守閣が造られたのは、1576年に戦国・安土時代の武将・織田信長が築いた安土城だと言われています。このお城は屋根がいく層もあるたいへん立派なものでした。天守閣は敵方の動きを見張ったり、領地を見渡す櫓（やぐら）が発展したもので、多くの場合、敷地の一番高いところに、一番高い建物として建てられました。

武士同士の大きな争いのない時代になると、見張りという実用的な役割はうすれ、その独特の外観が城主の力を示して地域のシンボルになり、家臣や城下の庶民に親しまれていきました。昭和に入ってから、50以上の天守閣が再建されたのも、日本独自の文化として大切に思われてきた証しなのかもしれません。

こころ豊かなスローライフのための情報誌

木族の家通信

No.85

家族が集う木の住まい
株式会社 木族の家
きぞく KIZOKU NO IE

2015年11月1日号 (毎月1日発行)

□□□□□□□□ 毎日できる身近な省エネ □□□□□□□□

心もあたたまる文化の秋の省エネ

エアコンの温度を上げずに、読書や勉強の時間をあたたかく



コツ1 読書は重ね着スタイルで

エアコンの設定温度は20℃を目安にしましょう。読書や勉強など身体を動かさないときは、少し寒く感じるかもしれません。でも、設定温度を上げるまえに、カーディガンや靴下などを重ね、膝掛けを用いるといいでしょう。首や足首、手首などくびれた部分をあたためると、身体全体がホットに。マフラーや腹巻きがおすすめです。

コツ2 お部屋の模様替えで外気をシャットダウン



外の冷たい空気が室内に伝わらないよう、カーテンは厚手にしましょう。その場合、カーテンの長さも大事です。床との隙間ができないよう長めに。腰高窓の場合も床までのカーテンを吊すと効果的。インテリアの色を水色など寒色系から、ブラウンなど暖色系に変えると、見た目があたたか。本なども落ち着いて読めそうです。

コツ3 電気カーペットはタイマー利用を

電気カーペットの上で寝転がって読書。そんな人も少なくないのでは？でも、そのままたた寝すると、低温やけどになることも。タイマーをかけておけば、やけどの予防にも、省エネにもなります。また、人が座っている場所だけに通電する、カーペットの下に断熱シートなどを敷いて熱を逃さないといった省エネの実行も。



コツ4 食材を選んで身体をあたたかく



夕食をひと工夫して食後の読書タイムをあたたかく。例えば、ニンジンやダイコン、カブやゴボウ、ショウガなど、身体をあたためる根菜を食材に。また、体脂肪を燃焼させるカルニチンが多いマトン（羊の肉）を取り入れるのもいいでしょう。何より三食をきちんと食べることが大切。とくに朝食を抜くと冷えを感じやすくなります。

コツ5 電気ポットは沸かす湯量も考えて

読書や勉強の合間にティータイム。でも、そのために朝から電気ポットでお湯を保温するのは電気のムダづかいです。必要ときに沸かすほうが省エネに。それでも電気ポットを使いたい人は、省エネ性能が高いものを選び替える方法も。また、お湯は必要と思われる量だけつくりましょう。もし余ったら魔法瓶へ。



